

12. コナスビ（サクラソウ科オカトラノオ属）

Lysimachia japonica Thunb. form. *subsessilis* (F.Maekawa) Murata

2014年8月

畦畔や道ばた、土手、丘陵地の草原など、広範囲に生育する多年草です。茎は細長く地を這い、まばらに軟毛があります。葉は対生で、広卵形で長さ10～25mm、幅7～20mmで短毛があります。花は5～8月に葉腋に上向きに1花つけます。花柄は2～3mmで花後の果実も上向けのままですが、母種であるナガエコナスビ (*Lysimachia japonica* Thunb.) は花柄6～18mmで花後下に曲がります。和名は小さなナスビ（茄子）で、母種のナガエコナスビの果実がぶら下がる様子がナスビの形状に似ていることから、由来になっているのでしょうか。しかし、本種は上向きに果実がつくのでナスビには見えません。薬草としても利用され、全草を乾燥したものは胃の痛みに利くとされます。かつて観賞用に鉢植え植物としてリシマキアの名前で売られていた植物はコナスビに似たヨーロッパ原産のヨウシュコナスビ (*Lysimachia nummularia* L.) で、鉢植え以外にも匍匐性のためクランドカバーとして花壇や公園などに利用されるようになり近年、各地で野生化しており、在来植物のコナスビやナガエコナスビに与える影響が懸念されます。



コナスビ



ナガエコナスビ